

第2回徳島フォレストサイエンスシンポジウム

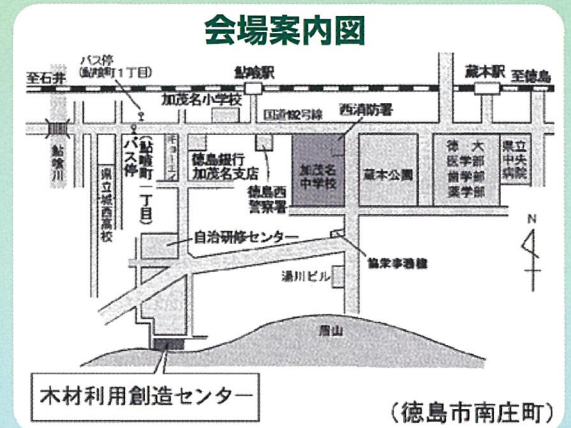
と き：平成30年7月12日（木）

午後1時30分～午後4時30分

ところ：徳島県立農林水産総合技術支援センター
木材利用創造センター 林業人材育成棟
(徳島市南庄町5丁目1番地9)

主 催：徳島県・国立大学法人徳島大学
国立大学法人鳴門教育大学
公益社団法人徳島県建築士会
公益社団法人徳島森林づくり推進機構

入場無料



第一部 「スギ大径材」に関する研究発表

13:30~14:55

「徳島すぎの強みを発揮する高耐久乾燥材の開発」

徳島県立農林水産総合技術支援センター 専門研究員 橋本 茂

徳島すぎ心材の持つ強みを活かし、乾燥後においても耐久性を保持することができる新たな人工乾燥技術を九州大学などと共同で開発しました。そこで、本乾燥技術を用いた人工乾燥試験の結果をはじめ、スギ大径材の利用技術開発に関する取組についてご紹介いたします。

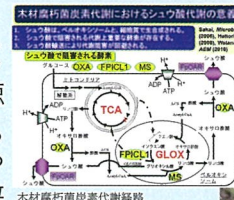


スギ大径丸太 (株式会社ゲンボク土場)

「スギ大径材の耐久性を保持した乾燥技術の開発」

徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 准教授 服部 武文

天然乾燥の1/100程度の期間で、スギ板材を乾燥させる技術を、徳島大、徳島県、徳島文理大学、九州大学、京都大学が共同開発しました。これまでの検討では、乾燥板材は、木材を腐らす菌類（木材腐朽菌）やシロアリに、天然乾燥板材と同等の耐久性を示しました。共同研究の概要と耐久性の結果をお話いたします。



木材腐朽菌炭素代謝経路



木材腐朽試験の様子

「木材乾燥技術の最新事情」

ー特に、徳島すぎの強みを発揮する耐久性保持型乾燥技術についてー

九州大学大学院 農学研究院 准教授 藤本 登留

木材を材料として使うときは、事前に適正な乾燥をする必要があります。様々な木材乾燥技術のなかで、このたび徳島大学や徳島県を中心としたプロジェクト研究で、大径化した徳島スギの心材を有効に活用する一つの手段として、心材の耐久性を低下させない画期的な効率的乾燥技術を開発しました。そこで、これまでの一般的な乾燥方法との違いを交え、開発された乾燥技術をご紹介いたします。



木材人工乾燥装置

第二部 パネルディスカッション「スギ大径材の用途開発と県産材の利用促進」 15:05~16:30

コーディネーター 鳴門教育大学 副学長 尾崎 士郎

アドバイザー 九州大学 准教授 藤本 登留

パネラー 徳島大学 准教授 服部 武文

徳島県立農林水産総合技術支援センター 専門研究員 橋本 茂

徳島県林業戦略課新次元プロジェクト推進室 室長補佐 宮崎 幸一郎

徳島県建築士会 会員 (大工棟梁) 宮田 育典

徳島森林づくり推進機構 技師 工藤 大和

那賀川すぎ共販協同組合 専務理事 湊 俊司